

第2節 地 勢

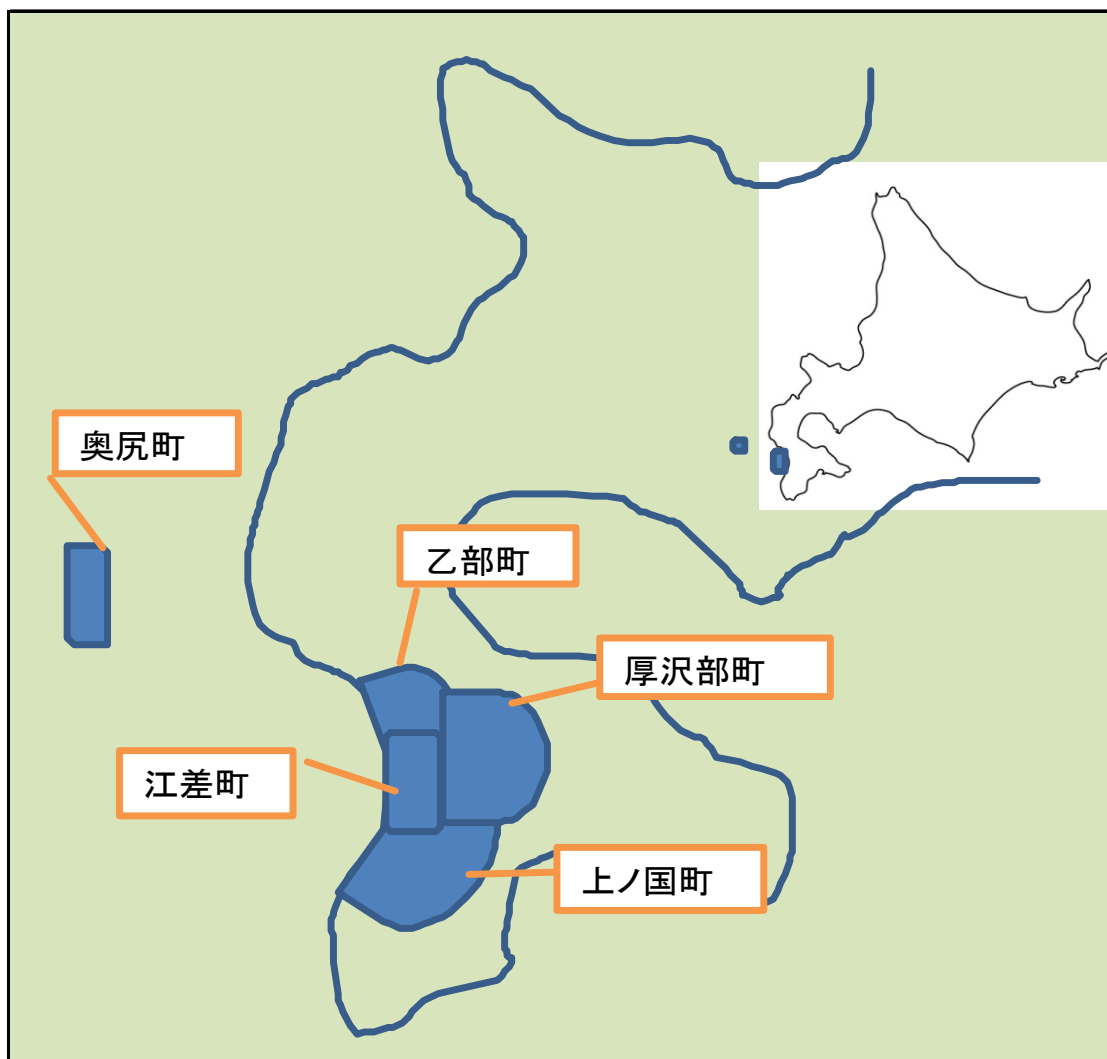
1 地理的状況や特殊性（南檜山圏域の地勢）

当圏域は北海道の南西部、渡島半島の日本海側に位置し、南北に細長い地形であり、江差沖61kmにある離島の奥尻町を含む5町で構成されています。

圏域内を流れる主要な河川には、厚沢部川、天の川などがあり、その流域は、肥沃な農耕平野地帯を形成しています。

平野を除いて圏域面積のほとんどは、森林であり、人工林であるスギ、トドマツを除くと、ブナ、カエデなどの天然広葉樹林によって占められています。

また、圏域内を鳥海火山帯が縦走り、波状性丘陵地、波状性段隆地が多く、その丘陵の多くは海岸線にまで迫る地形となっています。



2 交通機関の状況

(1) 交通機関の状況

ア 空 路

圏域内唯一の空港である「奥尻空港」は隣接圏域内の函館空港との間に定期航空路が開設されており、その所要時間は約30分です。

(2) 生活圏

南檜山圏域では、人口が離島 1 町及び 4 町の内て散在して分布し、人口は少子高齢化の進展とともに減少傾向にあります。

また、医療機関や大型商業店舗については、函館市を含めた南渡島圏域と結びつきが強い傾向にあります。